

環境に係る情報協議会

国営かんがい排水事業 帯広かわにし地区

1. 事業の概要(案)

《事業の目的》

本地区は、北海道帯広市、河西郡芽室町に位置する20,623haの農業地帯であり、ばれいしょ、豆類、てんさい、小麦の畑作物を主体に、ながいも、スイートコーン等の野菜類を組み合わせた農業経営が展開されている。

本地区内の一部の農地ではかんがい用水が未整備なことから、農作物の生育に必要な用水は降雨に依存せざるを得ないため、農作物の生産性が低い状況となっている。

また、ダムでは管理施設に経年的な劣化が生じており、施設の維持管理に苦慮している。

このため、本事業で畑地かんがい用水の整備を行い、農業生産性の向上と維持管理の軽減を図り、農業経営の安定に資するものである。

《受益面積》 20,623ha(畑20,623ha)

《主要工事計画(案)》 ダム(管理施設更新)
用水路(新設)

2. 環境に対する考え方

(「帯広市田園環境整備マスタープラン」より)

《農村環境の現状と課題》

【現状】

十勝平野のほぼ中央に位置し、日高山麓の広大な森林と十勝川・札内川の清流に恵まれた、四季の変化に富んだ気候と豊かな自然が特徴

【課題】

すぐれた自然、残された自然の保全とともに、自然と共存したよりよい生活環境の整備、自然を活用した開発計画、自然環境の再生復元が課題

これら課題の対応にあたっては、土地利用、都市計画、地域振興、観光開発、その他環境整備や防災事業、開発との調整が不可欠

《環境保全の基本的考え方》

豊かな自然環境を守り、次代に引き継ぐため、生産基盤の整備にあつては、自然に配慮した工法を採用し、環境と調和した農業の展開を目指す。

3. 環境配慮計画

《基本方針》

本事業におけるかんがい用水施設の新設にあつては、多様な動植物の生息・生育環境である、連続性を持った水と緑のネットワーク形成に配慮し、地域の自然環境や景観を保全する。

《取り組み内容》

【生態系への配慮】

・防風林及び河畔林に生息する動植物の生息環境への影響及び緑のネットワーク(動物の移動経路)の寸断を抑制するため、用水路工事の掘削幅を縮小するとともに、掘削による発生土を林帯区域の外に置き、伐採面積を最小化を図る。

・底生動物が生息する小河川、農業用排水路の横断工事では、工事前に捕獲し、工事の影響がない場所へ放流する。工事後は、既存の河床材料を再配置し、生息環境の復元を図る。

・地区内の河川、農業用排水路に生息する魚類等の生息環境に配慮するため、工事中には濁水防止施設を設置し、濁水流出を抑制する。

【景観への配慮】

・地域を代表する景観要素の一つとなっている防風林の伐採を最小化することで農村景観の保全を図る。